



2025年9月に2年・4年・6年を対象に実施した調査結果の一部を報告します。

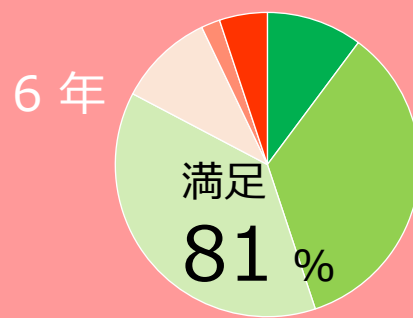
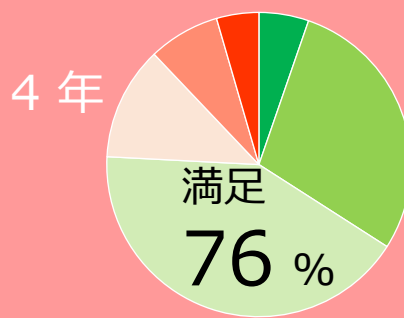
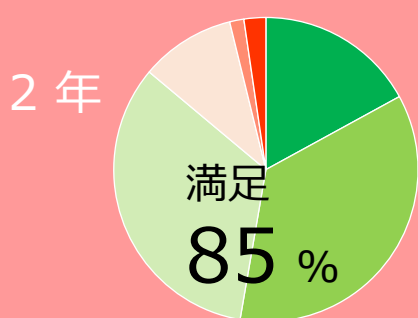
結果報告 Vol.9

作成日：2026年3月 作成：IR室

回答率 2年：93.5% 4年：84.7% 6年：96.1%

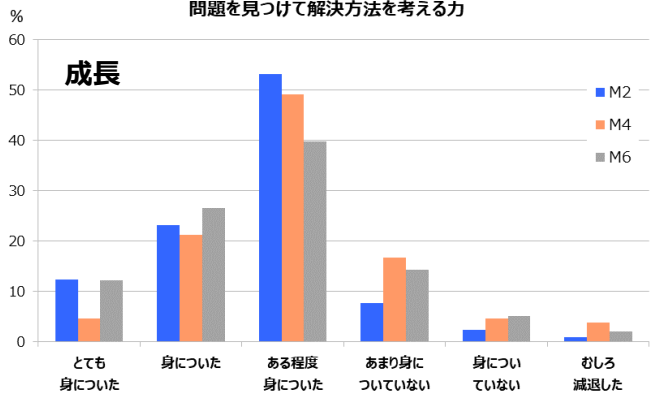
本学では良医育成のために、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に6年間の学修の到達目標（卒業時コンピテンス）を立てて教育を行っており、その成果を知る活動の一つとしてALCS学修行動調査を実施しています。この調査は、学生の皆さんがどのような経験をし、どのような学びを行い、何ができるようになったか、そしてどのような希望を抱いているのかについて、その達成度や満足度、成長感を把握するものです。毎年実施する予定で、本学学生の意識変化を調べるとともに、他大学との比較も行います。皆さんが達成感と希望をもって卒業し、医学・医療の世界で活躍していただくために、学修を支援し、教育改善に繋げる貴重な資料として活用させていただきます。

総合的にみて大学の学びに関する満足度



問題を見つけて解決方法を考える力

成長



仮説を立てて「検証」するフットワークを磨く！

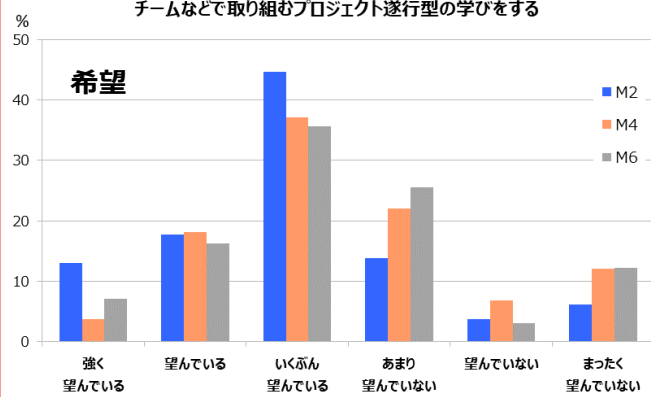


すべては『チーム医療』のシミュレーションだ！



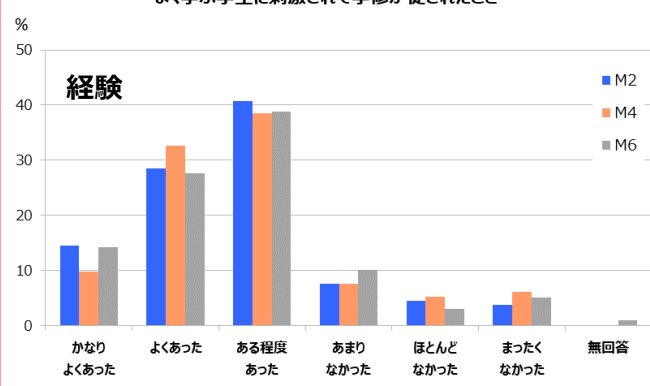
チームなどで取り組むプロジェクト遂行型の学びをする

希望



よく学ぶ学生に刺激されて学修が促されたこと

経験



「嫉妬」を「リスペクト」と「分析」に変える！



学生たちの確かな歩み

■「教わる」から「自ら問いかける」姿勢へ

これまでの「与えられた課題をこなす」受け身の学びから、現場の小さな違和感に気づき、自ら「なぜ？」と問いかける能動的な姿へと進化が見られます。

■「個人の学び」が「チームの力」に変わる瞬間

一人で知識を蓄える段階を越えて、仲間存在を刺激に変え、チーム全体の成果を最大化するために自分ができることを探す「プロフェッショナリズム」が芽生えている様子が伺えます。

自ら問いを見つけ、仲間と手を取り合いながら高め合う姿は、未来の医師としての頼もしさに満ちています。